

1.初任者研修をおこないました

3. ICT 活用ワンポイント講座「リンク送信でファイルを共有する」

6月の初任者研修では「学校におけるICTの在り方」をテーマとし、ICTの基本的な理解と授業や校務での活用について学びました。ICTは機器を使うこと自体が目的ではなく、児童生徒の学びを深めるための手段であることを確認し、「令和の日本型学校教育」の考え方やGIGAスクール構想の趣旨を踏まえながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた視点を共有しました。また、生成AIの特性や注意点についても理解を深め、校務DXによる業務効率化の重要性についても確認しました。授業の実践事例を通しては、ICTの効果的な活用方法や、目的に応じた使い方の工夫について考えることができました。今後は、1月に予定されているICTを活用した授業実践の報告に向けて、どのような実践事例が紹介されるのか楽しみです。

New Education Expo（NEE）は、国内最大級の教育関係者向けセミナー・展示会です。教育委員会、学校教職員、大学関係者などを対象に、最新の教育政策や ICT 活用、生成 AI、探究学習、学力向上など幅広いテーマの講演が行われました。また、100 社を超える企業・団体が出展し、教育 DX や校務支援システム、教材・教具などの最新ソリューションを体験でき、さらに公開授業や未来の教室の実演も行われ、教育の今とこれからを学べる場として毎年多くの教育関係者が参加していました。本年度東京会場は 6 月 4 日～ 6 日の期間で開催されました。セミナーの一部を紹介します。

～ 教育向け A I の実力と可能性～

中野 淳 氏

高見享佑 氏

江口悦弘 氏

安藤 昇 氏

文部科学省のガイドライン(Ver.2.0)では、学校現場における「人間中心の生成 AI の利活用」

【校務での利活用】：教職員が仕組みや特徴を理解した上で、テスト問題や文書のたたき台作成、授業準備、部活動、生徒指導などで積極的に活用することが期待される。これにより校務の効率化や教職員の働き方改革への貢献が目指されている。

【パイロット的取組】：文部科学省は全国 53 校を「生成 AI パイロット校」に指定し、効果的な教育実践の創出と知見の蓄積を進めている。

OECD が 2026 年 1 月に公表した報告書によると、トルコの高校生を対象とした数学の実践において、生成 AI を使ったグループは学習中に 48% のパフォーマンス向上が見られた。しかし、AI を使えない試験環境では、成績が 17% 低下するという負の学習効果が報告された。これは、AI が答えを出すツールとして使われることで学習の努力を怠り、知識の定着や批判的思考力が弱まる「松葉杖効果 (Crutch Effect)」として指摘されている。対策として、回答を直接教えずにヒントを出す「教育用 AI ツール」の開発や、AI リテラシー教育の必要性が提言されている。

大阪教育大学は、京都大学や国立情報学研究所（NII）と共に、文部科学省の大型実証研究プロジェクト（3 年間）に参画している。このプロジェクトでは、自律的に行動する「エージェント AI」を開発し、以下の 3 分野の実現を目指している。

教育改善： 教育プロセスの分析を通じた知見の蓄積と、エージェント自体の半自動的な改善。

「生成 AI」の注目度と比例し、参加者も非常に多く開始 15 分前には会場が満席となるような状況でした。県内においても生成 AI に関して多くの問い合わせがきます。ICT 教育支援センターでは、今年度も生成 AI に関する校内研修等の講師として、担当 指導主事の派遣を受け付けております。生成 AI について、何から始めたら良いのか？安全面は 大丈夫なのか？など、ご要望に応じた研修の実施が可能です。校種を問わず随時募集をしておりますので、お気軽にお問合せください。

■ リンク送信の基本手順

その URL をメールやチャットで送信すれば、受け取った人はリンクをクリックすることにより閲覧・編集等することができます。

リンクを使うと、資料の最新版を共有でき、容量を気にせず効率的に情報提供ができます。修正も一度で反映できるため、業務の効率化に有効です。

山梨県内の教育機関では、情報の安全性を確保する観点から、共有範囲を意識したリンク設定が重要です。ただし、リンクに関しては、保存している「one drive」「share point」内にあるため、ラベル付けが適切にされていないと相手側が開くことができません（共有の「範囲だけの設定ではないということです）。

・ファイルに「公開可能情報」ラベルを付けて、共有で「すべてのユーザー」に対して作成したリンク（共有リンク）は、どんなユーザーも閲覧できます。

- ・ ファイルに「公開可能情報」ラベルを付けて、共有で「山梨県教育委員会のユーザー」に対して作成した共有リンクは、@kai.ed.jp のユーザーでサインインすれば閲覧できます。

・ファイルに「公開可能情報」ラベルを付けて、共有で「選択したユーザー」に対して作成した共有リンクは、任意のメールアドレスを選択して閲覧可能状態にできます。しかし、対象のメールアドレスでサインインする際には@kai.ed.jp のゲストアカウント作成が自動で進行（Authenticator の登録が必要）するため、予めの設定が必要となります。

■ まとめ

「共有リンク」は、資料の最新版を共有でき、容量を気にせず使用できる安全性の高い共有方法です。県立学校の教員同士では、容量も圧迫せず非常に便利な手段です。例えば保護者や外部機関と情報を共有する際にも有効な手立てではありますが、公開範囲に十分注意が必要です。作成時は、閲覧・編集の権限を適切に設定し、対象者を必要最小限に絞りましょう。また、リンクには「何の資料か」「注意事項」などの説明文を添えると、受け手に親切です。

リンクの誤送信や、共有設定によっては情報漏えいにつながります。送信前の確認を徹底して適切な運用をお願いします。

「送信」をクリックした直後に、誤りに気がつき、お詫びのメールや修正したメールを再度送信した経験はありませんか？ 誤送信を未然に防ぐことが第一ですが、万が一のために、メールをすぐ送信せずに取り消せるようにする設定があります。

Outlook での手順は次のとおりです。「新規メール」の画面から、画面右上の歯車「設定」をクリック。

バックナンバーはこちら https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492